





一九九〇年一月、高退協クラブ活動で「山の会」が発足し、お誘いを受けて入会しました。五月二十二日の五月例会「天狗の森」に初参加。その前日は私の六十六歳の誕生日でした。

退職の翌年一九八二に入会の、中高年の「山と野草の会」での経験がなかったなら、この年齢での私の入会は無かつたでしょう。こうして二足の草鞋ならぬ二足の山靴を履き、

### 「山の会」で二十二年

おせわになりました、

市川 まさ

二つの会を繋いで山を楽しみ共に歩いた友と深い絆のありがたさを今あらためて胸に刻んでいるところです。

二〇〇五年の秋、千葉に移住した後も高知との縁を断ち難く、帰高時の山行を楽しんでいたのですが、この春「山と野草の会」を退会し、二十二年間お世話になった我が「教職員山の会」ともお別れすることに致しました。訪れた山には、それぞれの思い出と深い感動が詰まっています。

そのいくつかに触れてみたいと思います。

一九九四年二月の第五十回記念登山は一八名で梶ヶ森へ。中腹からは雪道となる。

八月には後立山の盟主、鹿島槍ヶ岳へ十二名で登り、翌年の夏は十七名で南八ヶ岳を縦走し、共に厳しくも充実した山旅を体験！

一九九八年四月の百回記念も梶ヶ森で山荘泊の夜を八名で楽しみ、翌年九月には自家

用車に分乗して十一名が遠く大山に向う。

二〇〇〇年九月十八名の参加で会では三度目のアルプスへ。スイスではハイジの村を散策しサンモリッツ周辺の山に登り、オーストリアではチロルの谷を歩き、イタリアではドロミテ山群の岩峰を巡るなど、それぞれに新鮮な感動を覚えた。

翌年八月九名で南アルプスの鳳凰三山を縦走、憧れのタカネビランジに出会う。十一

### 退任の挨拶

中村 正博

退職してすぐに高退協の事務局に足を運び八年が過ぎました。月一度の事務局会のあと、「ひろめ市場」に場所をかえての事務局会第二部も恒例となり、楽しい思い出となっています。

これから、一会員として活動に参加したいと思っています

井上圭介

定年退職してすぐにお誘いをいただき、二年間お手伝いをさせてもらいました。高退協の活動内容もよく分ならず

とまどうことも多く、皆様方にご迷惑をかけてしまいました。

スキーやその他の活動に参加させてもらい楽しかったです。しかし昨年一月から再び教壇に立つことになり、業務がほとんどできなくなってしまう申し訳ありませんでした。

現場に復帰してみると、まわりの忙しさは一段と進んでいます。今年も四月から二校掛け持ちで勤務しています。現役時代には一度も経験のない勤務形態で大変です。三十八年ぶりの臨時教員で、その過酷な勤務実態が確認できました。臨教運動を強化しなければと思っています。

月例会は珍しく県西部へ。土佐清水市の今ノ山と沖ノ島の妹背山に登る。船旅も楽しんだ十五名の島の一夜は母島港の民宿で。

二〇〇三年二月の百五十回記念山行は安和と土佐久礼への海沿いの道を十五名で歩く。六月には遠くフランス・スペイン国境のピレネー山系へ。百花繚乱の山旅を楽しんだ後、バルセロナの観光もなかなかのもの。

二〇〇四年九月は十名で秋のアラスカへ。期待したオーロラは遂に現れなかったが、マッキンリーは終始その雄姿を望むことができた。

二〇〇五年六月、三嶺（カヤハゲ）への万緑の夏山を楽しむ。一行は山頂を目指す一〇名とカヤハゲまでの九名の



一九名。この日の例会で私の参加は七十七回、「山の会」の最後の山旅となった。

都合により参加が叶わなかった槍ヶ岳、劔岳、屋久島それにアメリカ国立公園などはいまなお心残りではない。

来る九月例会は梶ヶ森への二百五十回の記念登山とのこと。すばらしい快挙ですね。多数の参加で盛大な記念山行でありますよう、祈念しております。

退会にあたり、運営委員の方々をはじめ、会員の皆様には何かとご指導を頂き、ご交誼賜りましたこと、あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。これからもみなさまお元気で、良き山行をお続けなされますように……。

千葉・八千代より

### 主な活動と参加(3月~4月)

- 3月3日・未来をひらく教育のつどい2011年度高校・障害児学校教育研究会(高知工業)
- 3月4日・2012高知県母親運動連絡会実行委員会(ソール)
- 3月5日・南炎忌 墓参・偲ぶ会 山原墓所 高知城ホール2階
- 3月5日・国際女性デー 高知県中央集会(ソール)
- 3月11日・子どもと教育を守る高知県連絡会(子連)講演会 総会(高知城ホール2階)50名
- 3月11日・なくそう原発3.11 高知集会 高知市丸の内緑地1100名 バレード(電車通り)
- 3月13日・3.11重税反対全国統一行動高知県中央集会 長6ホール 200名
- 3月18日・福島ドキュメンタリー映画「あしたが消える」
- 3月31日・宮川敏彦さんと山下正寿さんの受賞を祝う会 高知会館 白鳳の間 100名
- 4月13日 第1200回高退協読書会 ムトー荘 201号
- 4月14日「原発をなくし、自然エネルギーを推進する高知県民連絡会」結成総会 高知市青年センター アスパル高知
- 4月15日・撤回させよう「後期高齢者医療制度」と「社会保障と税の一体改革」(4・15学習交流会) 県立大学(永国寺)
- 4月21日・2012年度高退協定期総会 高知城ホール2階
- 4月21日・退職者を励まし、新加入者を祝う会 4階大ホール
- 5月1日・第83回県中央メーデー 高知市中央公園
- 5月3日・輝け日本国憲法! 55県民のつどい 高知文化ホール

### 短歌

ある吉本隆明の講演  
 榊原忠彦  
 椋鳥も来ずにかあらむ青木の  
 実あまたの赤実熟れたるまま  
 にて

プーイングは聞こえぬかのや  
 う吉本隆明紅潮の熱弁に二十  
 分も延びし

(昭和五十五年高知市夏季大学、  
 「文学の原型について」の講演にて)

森繁に添ふ淡島の写真や良し  
 新聞切り抜く「夫婦善哉」  
 (平成二十四年二月十九日「毎日新聞」)

日本の行く末

山本晶子  
 パナソニック、ソニー、シャ  
 ープと赤字つづく日本の国は  
 どうなるのだろう

北米を生産拠点化するトヨタ  
 失業する人多きに憂う

大企業の下には多くの下請け  
 の企業ありたり生き残らるる  
 か

大病院寸感

叶岡淑子  
 骨折の姉の手術につきそいで  
 医療現場の今かいま見る

ありがたき画像説明その後  
 リスク列記の同意書が待つ

おおかたはパソコンに向くス  
 タッフへ声掛けがたきナース  
 ステーション

### 川柳

あかつきの抄①

小澤 幸泉

このひととまさかまさかの  
 五十年

利用価値まだありそうな  
 電話口

愛ひとつ呉れし別れの  
 春の駅

マスク顔どこか美人に  
 見えてくる

苦しみの中から描く  
 未来地図

### 俳句

二月十八日 土曜  
 高知市 五台山 牧野植物園

生まれけり  
 薄氷の触れ合ふ音の  
 合田青幹

底冷えのしぶつたとと云ふ  
 土佐言葉

椅の実の赤々と日を零す  
 吉本伸秋

霜田ふ藁の乱れも温かし

小笠原さちを  
 春禽の少なき年や鶉の声

花馬酔木迎へてくるる一と並び  
 三月十七日 土曜

須崎市 桑田山

集落のあれば即ち寒桜  
 合田青幹

花の雨といふには激し且つ寒し

鶯の遠音ころがる雨の中  
 吉本伸秋

石垣の高き山家や花馬酔木

小笠原さちを  
 この雨に花の別れを告げられし  
 一枝のぬつと伸び来し

花見茶屋



形見分けしっかり母の

色に染め

悪政を飲み喰いちぎる

龍のノド

橋下の絵の具は二本

赤と黒

澁刺と歩くつもりが

また転ぶ

罪深きわれを抱きし

主の受難

### 退任のご挨拶

島本 聡

はや四年にもなりました。昼食会、旅行、二ユースの原稿集め、スキークラブ、家庭菜園懇談会など楽しく務めさせていただきました。が、最近物忘れがひどくなり、一日の1/3が捜し物ですご状態です。迷惑をかけないうちに事務局は退散します。近々「ぼけ を楽しむ会」を結成したいと準備しています。十分資格できたと思われる方は是非ご参加ください。

何十年かぶりに、ふたたび

その奇妙な物体を目にしたのは青森の三内丸山遺跡を訪れたときのことだった。お目当ての巨大な柱列や竪穴式・高床式の住居群のことよりも、その「縄文火炎土器」に強い衝撃をうけた。小ぶりなのだが重量感があり、その形態はとても実用的とはいえない。

### 三十五冊の思い出

### 青森 三内丸山遺跡

松山 和雄

しかし、内部からは圧倒的なエネルギーが溢れ出ているのを感じる。

なぜこのような造形が生まれたのか、展示室の解説を見てもどうにも胸にストンと落ちない。造形の概念的なこと(コンセプト)をもっと知りたくて調べてみたが、どの解説を見ても一様に「・・・謎である」の文字で終わっている。そのうちに「縄文火炎土器」のことは頭の中から消えていた。

そして昨年の三月十一日、巨大地震と大津波が東日本を襲った。連日テレビに映し出されるさまざまな映像を胸が締め付けられる思いで見ているのだが、地震とはまったく関係が無いはずの、以前目にした「縄文火炎土器」のことが不思議と頭の中に浮かんでくる。

やがて書店には写真集など

松山 和雄

私は活字を見るのが苦手です。また、人の話をちゃんと聞くことも苦手です。さらに、腰痛のせいもありじつと座っていることが出来ません。そんな私ですが何とか事務局員として五年を過ごしてきました。高退教は「ひろめ市場」のようです。いろんな価値観や考え方を持った人が、お互いに刺激し合いながら一カ所に集っています。楽しい五年でした。

の書籍が多く並びました。その写真集を見ているうちに「縄文火炎土器」と大震災の結びつきが私なりの仮説として整理されてきた。

いくたびか津波による壊滅的な被害を受けた、岩手県宮古市の姉吉部落の入り口には、先人の教えである「高き住居は児孫の和楽・・・」(ここより下に家を建てるな)の石碑があり、今回の震災による津波から集落全員の命を救ったという。

まだ電子機器や映像メディアはもちろん、文字も無い遠い昔のこと。縄文の人々は、あの渦巻きや火炎を思わせる文様をほどこした土器をメッセージの媒体として造ったのではないか。いつもは生活の糧をもたらす恵みの海や山が、突然に逆巻き火を噴き出し大地を襲う。時としてわが生命を脅かす存在でもあるということ。「縄文火炎土器」で表現し、「荒ぶる海と山の神々」への畏敬の念を後世へ伝えようとしたのでは、と思えてならない。

だとすれば、今回の震災や原発事故による放射能汚染の教訓を、数千年の後世に伝えることが出来る媒体を創造出来ていない私たちは、縄文の人々より真に「文明的・文化的」と言えるのだろうか。